

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ミャンマー)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター運営委員会 委員 橋本 智恵
接合科学研究所 特任講師

2020 年度のミャンマーオンライン CIS(カップリングインターンシップ)が、12 月 4 日-21 日の期間にミャンマー・ヤンゴンと日本を結んでオンラインで実施されました。本年度は新型コロナの影響のため、海外渡航不可となったことから、CIS 初のオンラインでの実施となりました。CIS ミャンマーには大阪大学の外国語学部 2 名、経済学部 1 名、工学研究科 1 名、ヤンゴン工科大学(YTU)の冶金工学・材料科学研究科 1 名、冶金工学・材料科学部 1 名と機械工学部 2 名の計 8 名の学生が参加しました。

本学学生は、6 月から日本で計 8 回の事前研修を受講し、本番に向け準備を行いました。CIS 開始後 2 日間は、日本・ミャンマー国紹介、ものづくり日本企業の紹介やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマの事前検討などを行いました。

12 月 16 日からの 2 日間は、ヤンゴンにある J&M Steel Solutions (橋梁会社、JFE エンジニアリングの子会社)とオンラインでつなぎ企業理念、組織、業務内容を勉強しました。

また、実習テーマ「労働意欲の課題と対策」に関して、企業の幹部・リーダーへのインタビューも行い、最終報告会に向け連日チーム協議に取り組みました。

最終日の 12 月 21 日に学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会(写真)には、J&M の明野社長と鈴木部長、橋本課長補佐、YTU の Mon 教授(機械工学部長)と Yun 教授(材料科学部長)、接合研の菅客員教授ら計 16 名の参加があり、A, B 両チームから、労働環境、評価制度、従業員教育、コミュニケーション等の改善案が提案され、続いて活発な質疑応答が行われました。明野社長からは「提案を是非検討していきたい」とのコメントをいただきました。学生は、オンラインの壁を越え「異文化コミュニケーション」、「グローバルチームワーク」の難しさや面白さを理解し、そして、グローバルものづくり企業の活動や困難への取り組みについて学ぶことができました。いつか必ず会いましょう！と皆で約束をしオンライン CIS が終了しました。

